

# 広葉樹コンテナ苗生産技術の検討 (R3~5)

## 国補: 林業普及情報活動システム化(林業試験研究情報調査)

久保 健・河合昌孝

### 1. はじめに

令和2年4月に「奈良県森林環境の維持向上により森林と人との恒久的な共生を図る条例」が施行され、これに基づき令和3年度から開始される「混交林誘導整備事業」では、「地域に適応した高木種」としてケヤキ、ミズナラ、トチノキ、カエデ類等が示されているが、これらのコンテナ苗育苗にかかる知見は未だ少ない。本課題においては、これまで林業樹種（スギ、ヒノキ）について蓄積した技術を基に、導入対象となる広葉樹にかかるそれぞれの育苗特性を明らかにし、そこで得られた知見を生産者に普及する。

令和3年度では、県内種苗生産者の広葉樹コンテナ苗種苗の安定生産・供給を目的として、先進地（徳島県上勝町）において生産状況調査を行い、コンテナ苗生産方法に関する情報を収集するとともに、県内の広葉樹種子採取が可能な母樹の探索を行い、令和4年度事業向けとして広葉樹コンテナ苗を生産する事業者に対してそれらの情報を提供した。

### 2. 材料と方法

#### ①先進地におけるコンテナ苗の生産技術の調査

広葉樹種苗の先進事例1箇所について調査した。

#### ②広葉樹母樹の探索

令和3年度5・8・9月に、吉野郡4カ所（川上村井光、東吉野村杉谷、下北山村浦向～十津川村上葛川、野迫川村平川～池津川）、宇陀市1カ所（室生向瀨～大野）、高取町1カ所（センター内）において、開花状況、着花状況、充実状況、実生芽生え等について、目視により調査した。

#### ③種苗採取した樹種にかかる試験育苗

上記母樹探索において確認できた種苗（種子・幼苗）を育苗箱・Mスターコンテナにおいて、試験育苗した。

### 3. 結果と考察

#### ①先進地におけるコンテナ苗の生産技術の調査

徳島県上勝町：上勝町高丸山周辺の「高丸山千年の森」の広葉樹林化（平成16～19年度）にあたり、広葉樹コンテナ苗（マルチキャビティ）育苗を担当された田中氏（上勝町広葉樹苗木生産組合）を昨年度に続いて訪問し、当時から現在までの育苗にかかる情報を得た。前回（R02）の訪問では、広葉樹コンテナ苗を生産するにあたり、ア、地域に従来分布しない樹種を供給しないこと、イ、発芽率が高い種子が得られる母樹の探索が容易でないこと、ウ、樹種によって育苗特性が異なり灌水や施肥について試行錯誤を重ねたこと、等の情報を得たが、今回は、エ、優良母樹の豊作年に種子を取り貯めること、オ、育苗箱への播種について、高密度のばら播きを避けること、カ、芽生えの育苗時（播種・発芽後）の施肥量について、出荷を見込む苗については適量を与え、それ以外は量を抑制すること、等、有効な情報を得た。

#### ②広葉樹母樹の探索

上記調査地では、クリ・コハウチワカエデ・ウリハダカエデ・ミズナラ・オニグルミ（川上村井光）、クリ・ウリハダカエデ、イタヤカエデ、シナノキ（東吉野村杉谷）、ミズナラ・イタヤカエデ・キハダ・ミズメ・オニグルミ・イヌシデ（下北山村浦向～十津川村上葛川）、ミズナラ・コナラ・イタヤカエデ（野迫川村平川～池津川）、ケヤキ・モチツツジ・コバノミツバツツジ（宇陀市向瀨～大野）、ムクノキ、コナラ、クヌギ、ヤマザクラ（高取町）等について、結実を確認したが豊凶については、差がみられた。概して、日照・土壌・地形等の諸条件が関連していると思われる。

#### ③種苗採取した樹種にかかる試験育苗

②における調査時に採取した数樹種の稚苗（芽生え）及び種子について、種子については播種・発芽後、稚苗については直接コンテナ苗化して、育苗した。種子については、種子が有する発芽能力（発芽率）がまちまちであり、樹勢が良い母樹を探索すること、発芽率を最大にすること、が必要と思われる。稚苗については、コンテナ化後の活着率が60～80%であり、今後、活着を高めるための方策を検討する必要があると思われる。